



令和6年度 ミライ共創プロジェクト

シェア農業を ビジネスチャンスに

農業チーム

JAセレサ川崎

藤澤 潤

JA伊賀ふるさと

坂本 直己

JAグリーン近江

落合 直記

JAぎふ

安藤 桂司

1

日本農業にかかる現状の課題

現在の農業経営には、下記3つの課題があるのでは？

1. 生産価格の上昇

- ・ 資材価格の高騰
- ・ 物流費の増加



2. 農産物の価格低迷

- ・ 消費者の価格基準
- ・ 大手スーパーの台頭



3. 農家の減少

- ・ 農家の高齢化
- ・ 担い手不足
- ・ 農地環境（市街化）
の変化



農業の持続性の危機

食糧自給率の減退

2

地域農業にかかる現状の課題

担い手不足 高齢化

- ・農業従事者の高齢化が進み、後継者不足の深刻化と耕作放棄地の増加
- ・若者の農業離れにより、新たな担い手の確保が困難

気候変動の影響

- ・異常気象の頻発により、農作物の生産量が不安定

経営規模の縮小

- ・高齢化による労働投下量の減少
- ・農産物価格の低迷による単位当たりの収益の低下
- ・消費者ニーズの多様化(有機農業・環境調和型農業など)に沿った農地の整理、縮小

地域コミュニティの衰退

- ・過疎化や高齢化によるコミュニティの衰退

3

日本農業と地域農業の共通課題

経済的衰退

高齢化・担い手不足

社会的課題

共通課題から導ける対策

- ・ 農業者支援と担い手の育成
- ・ 地域経済の活性化と農業所得の向上
- ・ 地域コミュニティの再生と農業の社会的価値の向上
- ・ 地域社会と農業の連携強化

「人づくり」「モノづくり」「販路づくり」

農業へ挑戦してもらいやすい事業の提案 ⇒ **シェア農業**

4

新たな生産者育成に向けた必要な支援

1

農業への関心の喚起



食への興味を持ってもらおう

- 1) 食育活動の推進
- 2) 農業体験プログラムの実施
- 3) 農業イベントの開催

2

農業の知識・技術の習得

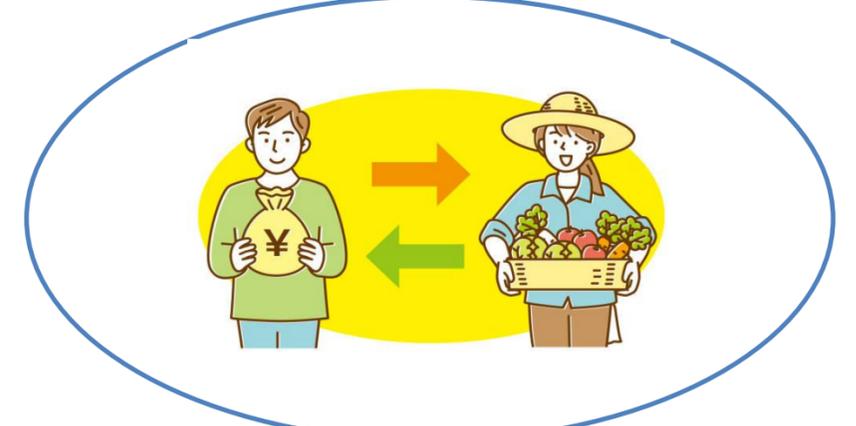


農業知識とスキルを身に付けよう

- 1) 就農支援制度の充実
- 2) 出向く活動による営農指導
- 3) スマート農業の導入支援

3

経営感覚の習得



手軽に出荷ができるように

- 1) 農業経営セミナー等の開催
- 2) アプリを利用して収支把握
- 3) 出荷システム運用とサポート

5

新たな生産者育成に向けた必要な支援

4

地域・JA・行政との連携



連携不足が問題視されている

- 1) 生産者と消費者の交流促進
- 2) 情報の共有と業務提携
- 3) 地域密着の強みを活かした活動

5

生産者との関係構築



頼りたいと思われる存在に

- 1) 生産者向けの情報発信
- 2) 出向く活動での信頼構築
- 3) 地消地産の推進

支援をした後に今後に繋がる新たな取組って何かしてるのかな？



組合員との伴走が必要
それを忘れていないか？

6

農に関わる地域活動一例

JAの取り組み

チェックポイント
ターゲット



1 農家の顔が見える収穫体験

農家から収穫適期やおいしい農産物の見分け方などを教えてもらいながら体験することにより「農」にふれる機会を増やすことで、「農」を身近に感じてもらう地域農業の理解を図る。

2 農業に挑戦

家庭菜園から一步踏み出したい方やビギナー農家、定年帰農を考える方を対象とした事業支援企画、サポートをしていくことにより新規就農者の増加を図る。

3 就農支援

初心者向けの講習会や出向く営農活動により、栽培についての悩み相談や技術指導を行う寄り添い活動を重視し、安定出荷・農業所得確保・離農防止に努めて行く。

4 シェア農園の開設と販売

消費者が家族や友人、シェア農園入居者等と農産物の収穫・消費を共有することにより「農」と「食」への関心を高めてもらい「農」を副業から本業に繋げる意識転換、販売できる販路の確保。

5 消費者交流

産直店舗の親子買物ツアー企画や農業祭などで消費者との交流を行い、地消地産および地産地消を伝える活動を図る。

JAとして4を今後のビジネスとして取り入れられないか？普通のシェア農業ではなく、入園者とJAが双方にメリットがあるシステムの構築を考えても面白いのでは？野菜又は今注目の水稻でも活かせるのではないか？



7

シェア農業の可能性

シェア農業とは

農地や農機具などを複数人で共有し、農業を行うもの



- ✓ 気の知れた友人などと楽しく農業にふれあえる
- ✓ 若い世代でも気軽に取り組める

シェア農業をビジネス化できるなら・・・

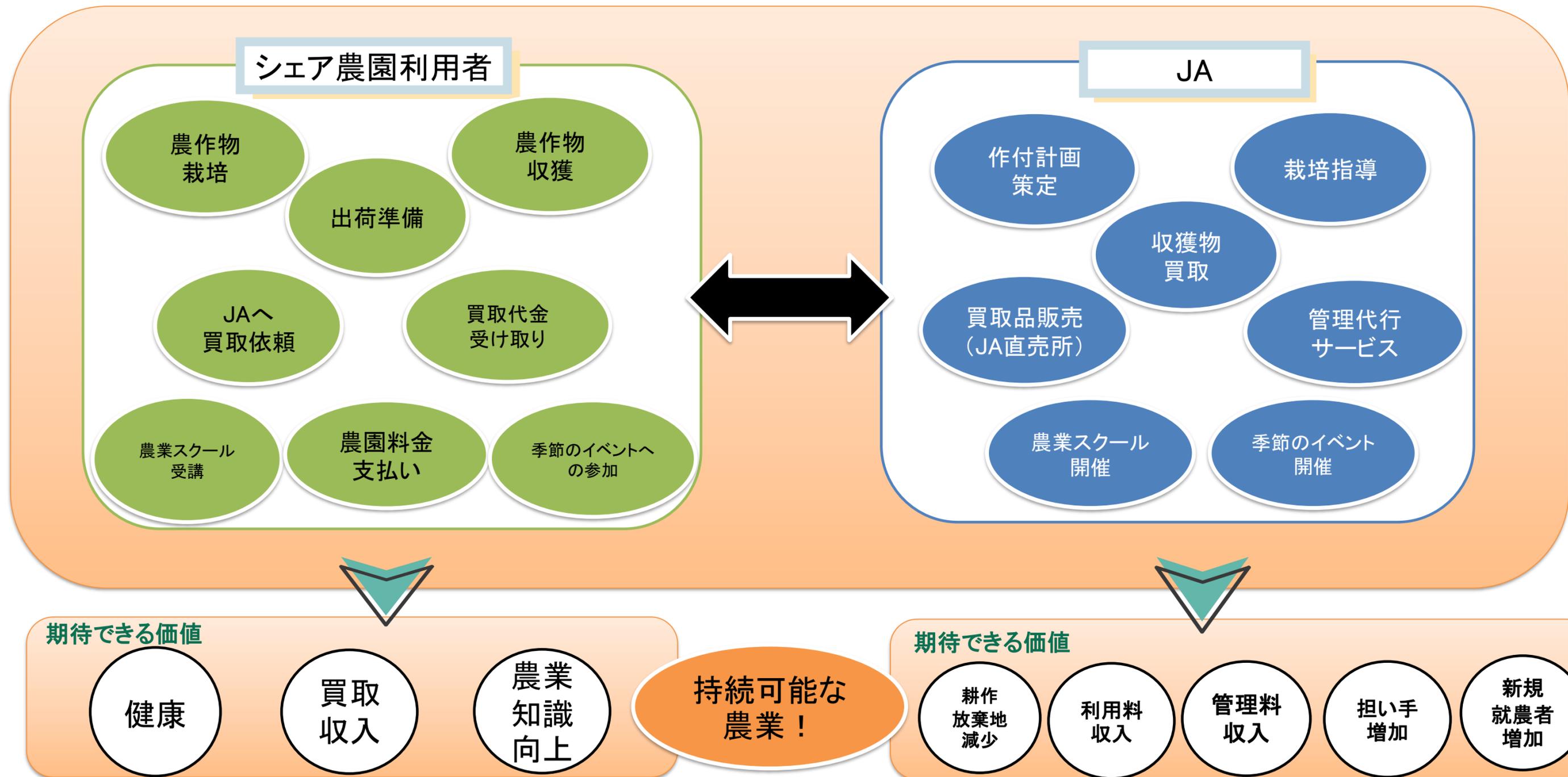
高齢化や後継者不足、耕作放棄地などの解決につながる可能性があるのでは



農業って楽しいね♪
美味しそうだね♪

8

シェア農業ビジネスの役割



9 シェア農業ビジネスのイメージ

農園利用者

シェア農園料金



1区画 3a(10m×30m)
15万円(年間)

利用人数

1区画
最大 3名まで

農作物栽培内容

そ菜関係
季節に応じた作物を
栽培

収穫物買取依頼

JAへ買取依頼
出荷準備



管理代行 サービス

農園の管理を代行
代行手数料として
買取価格の20%支払い

農業スクール 受講

栽培指導とは別で
無料で開催(毎月)

* 年間買取額見込

3a:50万円(営農顧問より)

JA

作付計画策定

自由作付は不可
種苗・肥料・農薬・道具
JAで用意

栽培指導

2回(月)
農園にて実施
農家やJA職員が実施

買取実施

買取価格はJAで決定

販売



買取した農産物を
JA直売所で販売

管理代行料

農園の管理を代行
代行手数料として
買取価格の20%徴収

農業スクール 開催

営農顧問による販売農家を
目指す講義の開催

* 年間収益見込(買取額と販売額の差額)

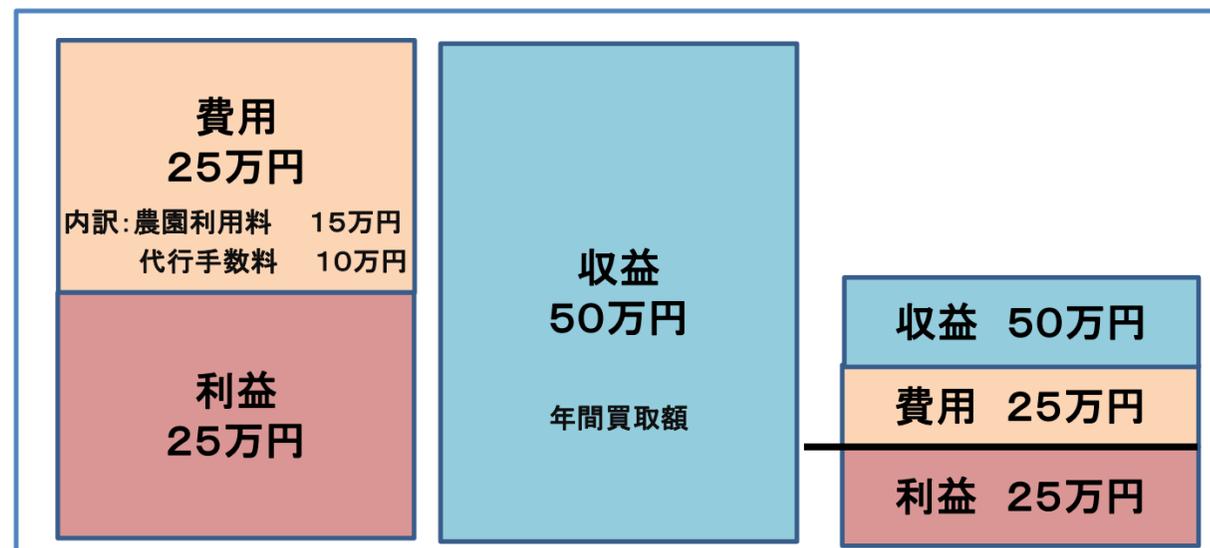
販売額を買取額の20%上乗せと設定

見込額:10万円(50万円×20%)

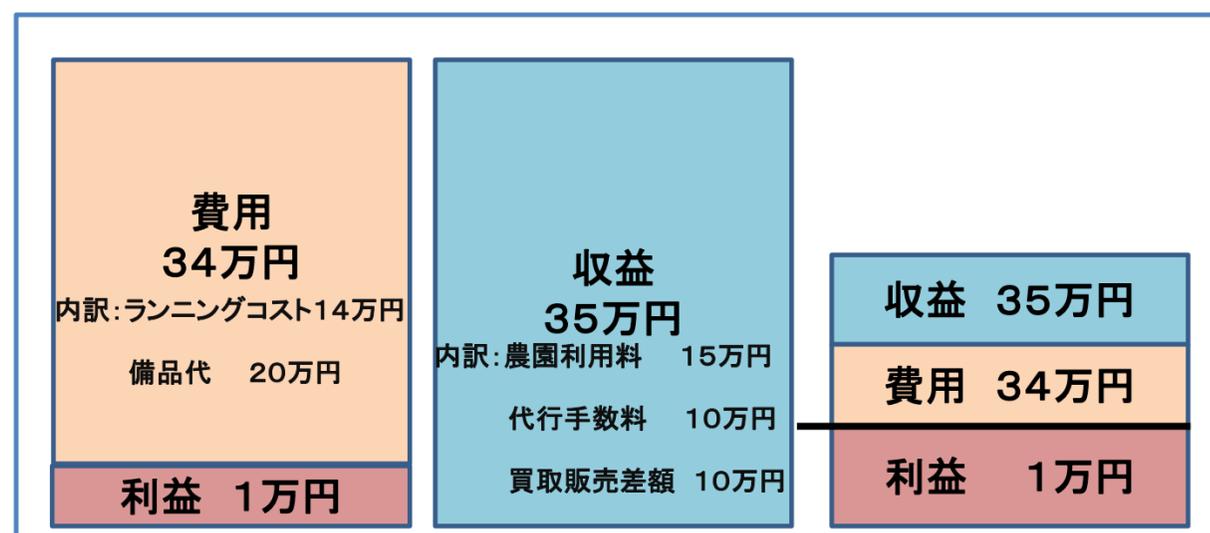
10 収支モデル予測

初年度収支見込

農園利用者 1区画



JA *ランニングコスト 14万円(種苗・肥料・農薬・道具他) *備品代 20万円(クワ・支柱・ネットなど)



JA利益推移

(単位:万円)

